

教材の本質をふまえた体育指導のあり方

～ゲーム・ボール運動を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

- (1) 「ゲーム・ボール運動（ゴール型・ネット型・ベースボール型）」において、わかって・できる楽しさ、喜びを味わうことのできる授業づくりについて研究を深める。
- (2) 技能を高めるための効果的な言語活動（学習資料や学習カードなどを含めて）について研究する。
- (3) 「ゲーム・ボール運動（ゴール型・ネット型・ベースボール型）」の3年目として、理論研究や実技研修を行う。

2 授業研究

2年生「キックベースボールゲーム」（ゲーム） 堀内友貴 教諭 日下部小

(1) 授業実践から学んだこと

- ・児童の実態に応じて、教材教具の工夫を行うことで、運動を苦手としている児童も、運動を好きになることができた。
- ・ルールを最初から決めるのではなく、単元を通してルールを柔軟に変更していくことで、児童がボールゲームを好きになり楽しむことができた。
- ・授業実践を通して、集団成長させることができ、集団づくりの大切さを学ぶことができた。
- ・ボールゲームの特性を理解して、ルールなどを工夫する大切さを改めて知ることができた。
- ・単元を通して基本的な技能を身につけるための時間が設定されており、ポイントを押さえた指導で、ゲームに生かすことができる技術を習得していた。
- ・「チラッ、ピタッ、キック」という、簡単な「スポーツオノマトペ」の簡単な音を活用して指導することで、必要な技能を身に付けることができた。
- ・教師の熱意が児童に伝わり、学級全体が落ち着き、まとまっていくことを改めて感じ、体育の授業づくりが学級づくりに、大きく関わることを学ぶことができた。
- ・教材の本質を踏まえ、「わかる」「できる」ことで、達成感を味わわせることを不変のテーマとし、児童の実態に応じた授業づくりをしていく。

(2) 授業実践から、今後さらに研究を深めたいこと

- ・教材の本質や運動の特性については、今後もさらに研究を積み重ねていきたい。
- ・体育の学習における効果的な言語活動とはどのようなものかを、研究して深めていきたい。
- ・ベースボール型の学習において、運動量を確保する授業の研究を深めたい。
- ・教師として、児童のつまずきを見抜く力と、見抜いた後に適切な指導や支援をしていく教師の力。
- ・対話活動を活発化させるような、学習カード、学習の資料についての研究。
- ・一人一台端末などのICT機器の有効的な活用方法について。

II 成果と課題

1 成果

- ・3年間の研究を通して、ゲーム・ボール運動の分野における系統性を理解することができた。そのことを踏まえて、完成型となるスポーツを見据え、動きやルール、流れを習得できるよう、指導法を工夫していく必要があることが分かった。
- ・ゲーム、ボール運動の技能を身に付けるために、教師のねらいと児童の操作性、二つを兼ね備えた教具を選択することで、技能を向上させることができた。
- ・児童が意欲的に学習に参加するために、児童一人一人のマイボールを作ることが有効的であった。
- ・運動経験が少ない児童でも、ボールゲームを楽しむことができる手立てを研究し深めることができた。
- ・組織研究により、多くの先生方から指導助言をいただくことができ、多角的な視点からより良い指導法を追求することができた。

2 課題

- ・コロナ禍でも有効的にできる、対話活動についての研究を深めること。
- ・特別に支援を要する児童に対して、どのような配慮（場づくり、言葉がけなど）が効果的なのか。
- ・体育科におけるICT機器（タブレット端末等）を有効活用した指導方法の研究。
- ・対話活動を活発化させることができる、学習カード、学習資料についての研究。

3 参考文献

- ・スポーツオノマトペ
ーなぜ一流選手は「声」を出すのかー（2008年7月） 藤野義孝
- ・魔法のことば オノマトペ（2017年12月） 藤野義孝

（部長 向山 澄）